

# 「トリプル・ワイン」への3つの提言

## 保険会社 長期的な地域への貢献を進める

7～9月もアジアや欧州を飛び回り、ニューヨークの暑い夏を留守にしているうちに肌寒くなってきた。10月にはベルギーに飛ぶが、その後、欧州に寄つて再び帰る頃にはコートが必要かもしれない。

この夏の活動の一番のハイライトは8月31日付けでABAC(APECEビジネス諮問委員会)がAPECE財務大臣に提出したアジア太平洋金融フォーラム(APECF、野村総研の鈴木裕之副会長が議長)の2016年進捗報告書の完成である。

## 日本の「長寿安心年金」も参考に

これまで本紙(2013年11月22号、2016年6月3日号)でも、APECF保険年金作業部会(筆者が座長)の活動を報告してきたが、今年で3年目を迎えるAPECFの2016年進捗報告書のうち、保険業界に関係

### 新HOKUEN

### グローバル事情

日本生命 ニューヨーク事務所 大久保 亮

する項目は、「金融の強靱性の強化」と「地域の長期投資の基盤拡大」である。

まず「金融の強靱性の強化」について、APECE地域には地震や津波、ハリケーンなど、自然災害に晒されている国が少なくない。APECFでは地域の強靱な成長を支援するため、地域の効果的な災害リスクファイナンスの促進に資する政策措置を提言している。

その主な項目は、健全な金融・保険市場の発展、データの活用による災害リスク評価の向上、災害リスクに関する公共の認知の向上、災害に対する強靱なインフラ構築への投資、APECE経済圏の迅速なアクションを促す知識の共有、官民の協力などである。

2016年進捗報告書では、そのようなトリプル・ワインを実現するために解決すべき課題として、**①**年金貯蓄の奨励、**②**インフラ投資の促進、**③**規制・会計制度の3点

たリスク・データの調査、専門家ネットワークとロードマップ、マイクロ・インシユランス普及のためのロードマップの構築等を提言している。

### 銀行の預貯金から 長期の貯蓄商品へ

次に「地域の長期投資の基盤拡大」について、新興APECE加盟国では銀行中心の金融システムが大半を占めており、消費者の金融資産のほとんどは銀行の預貯金である。これをまず、

**①**長期の貯蓄商品へのシフトによって消費者は

安定的により高いリターンが見込める。

**②**保険会社や年金基金の長期資金が増加し、資本市場の発展やインフラプロジェクトへの資金提供をサポートする。

**③**政府にとっては、高齢化への対応、持続的な経済発展と強靱なインフラ、政府負担の実質的な軽減、ソブリン格付けの向上というメリットをもたらす。

APECFがめざしているのはこのようなトリプル・ワインである。

APECFでは、保険会社や年金基金のみならず、解決というよりも、インフラ投資などの長期資金を支える長期貯蓄の拡大にあるため、インドネシアなど人口動態的には若い国でも重視されている。

また、商品イノベーションや消費者教育についても提言している。伝統的な終身年金に加え、Fintechの活用や長寿リスクプリーニング、英米で特に普及している雇用主の確定給付プランの長寿リスクを生保会社がごっそり引き受けるための金融手法の採用などを挙げている。



7月21日、高IQ団体メンサ(人口上位2%の知能指数を有する者を会員とする国際組織)のニューヨーク支部による一般向け無料講座の講師として、マイクロソフト旗艦店にてグローバル・コミュニケーションに関するレクチャーを行いました。

メンサ会員、ミュージカルファン、国際派ビジネスマン、国連関係者などの方々にご来場いただきました。冒頭に20カ国英語のモノマネ芸を披露。世界60カ国以上を飛び回って仕事をしてきた経験から、言語や文化の違いがコミュニケーションに及ぼす影響に着目しつつ、言語や国籍を超えたグローバル・コミュニケーションについて語るもので、青山学院大学でもゲスト講師を務めたテーマでしたが……。

## グローバル・コミュニケーション

なんと! 今回、「知性とパフォーミング・アートのコラボレーション」と題して、「OMOTENASHI Journey (砂本典子作曲・脚本・演出、本紙2016年6月3日号参照)」とのコラボが実現しました。レクチャーの間にミュージカル・ショーを組み込むという初の試みです。

2020年東京五輪のスローガンでもある日本人の「おもてなし」の心を軸に、ニューヨークならではのダイバーシティを通じて、ファンタジーの世界を表現するミュージカルOMOTENASHI Journeyのコンセプトは、言語を超えたコミュニケーションの精神とも合致します。

レクチャーでは「おもてなし」が日本に生まれた言語的な背景も掘り下げつつ、「OMOTENASHI Journey」のミュージカル・ショーにつなげました。

多国籍キャストですが、饗場さやか、中西美緒、長谷川由衣、前田有希、山下真由、渡辺朋が日本人キャスト、スタッフとして関わりました。(講義およびミュージカル動画はmackglobe.com)

して建設リスクはしばしば指摘されてきた。

これを100%保証することにより、建設完成後ではなく資金調達当初から、長期投資家がインフラ投資しやすくなることを意図している。

### 10月にリマでも議論 まだまだ道半ば

第三に規制・会計制度の観点からは、長期投資や退職準備商品の提供を促進する上での阻害要因となる規制上の制約を取り除くと共に、リスク管理を改善し、ベストプラクティスの採用に向けたインセンティブを与えるよう設計すべきとしている。

なお、IAISが検討中のICS(国際資本基準)にも触れ、銀行類の規制、短期的な経済価値ベース、画一的な規制の回

この進捗報告書の内容は、10月14～15日の財務大臣会合(リマ)でも議論されるが、カンファレンス・ラウンドテーブルなどを通じて幅広い層の規制当局やステークホルダーとのダイアログが奨励されており、報告書は完成したとはいえ、まだまだ道半ばといえる。(注) なお文中意見に関する部分については、筆者の個人的な見解であつて、所属する団体の見解を代表するものではない。